View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by KANAGAWA University Repository

読み物資料を使った中学校道徳の授業のあり方

柳堀　俊夫

はじめに

本授業の前半は道徳教育の基本的事項について理解を深めることを目標に講義を中心に進めたが，後半の授業ではその内容を土台に道徳の時間の授業を実際に経験することにより授業力を付けることをねらいとした。

そこで，学生が中学校時代に受けた道徳の時間の授業はどのようであったかについて調べたところ，生徒各自が道徳の副読本を読みその内容の感想をノートに記入する時間であったという回答が多かった。このことを踏まえ本授業の実習においては“生徒の心に響くような道徳の時間の授業”を目指して，読み物資料を使用した道徳の時間の授業づくりに取り組んだ。

なお，実習の授業時数は７時間（模擬授業は５時間）扱いとし，履修者が４１名のために１チーム３名構成として１４チーム編成にした。実習では班員同志の話し合いを中心に授業計画を立案した。その主な内容は読み物資料から題材の選定，資料分析，発問づくりと発問構成の工夫について検討し授業の構想づくりをした。模擬授業のテーマは“生徒の心に道徳的価値の内面的自覚が図れる指導過程”とし，立案した指導過程を基にチームの代表が指導者となって模擬授業を行った。

また，他の学生は生徒役の立場なり意見を発言して模擬授業に協力する方法で進めた。

１　道徳の時間の読み物資料

学習指導要領に示された道徳の時間の目標は，学校の全教育活動を通じて行う道徳教育と密接な関係を図りながら，それらを補充，深化，統合して道徳的価値及びそれに基づく人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践を支える力である道徳的実践力を育成することが挙げられている。

道徳的実践力は，道徳的心情，判断力，実践意欲と態度が包含された内面的資質を意味しているが，人間としてよりよく生きていく心のパワーとも言える。したがって道徳の時間においては，学習する道徳的価値にかかわって教師は生徒の一人ひとりと心を通わせることが大切になる。道徳の時間は学習する道徳的価値について生徒自らが主体的に感じて考えることを通して道徳的価値を形成していく時間と言える。

読み物資料を使った道徳の授業では，資料に描かれた登場人物の考え方や振る舞い方に生徒自身が経験したこと，あるいは，現にどう判断したらよいか悩んでいること等に何らかのかかわりもってその価値内容について重ね合わせて自分の考えを発言し，仲間の意見を聴きながら価値の内容について自覚を深めていく時間になる。このような読み物資料を使った授業展開を行うためには，教師の発問内容を工夫し，生徒一人ひとりの内面にある価値にゆさぶりをかけるようにして，活発な生徒の発言と話し合い活動ができるようにして，生徒の心に「本当にい

いなあ！つくづくそう思うよ！」と共感的，感情的裏付けをもって自らの課題に向かって取り組もうとする心構えがもてるようになる。このようなイメージで教師が授業を進めることによって，生徒は人間としてより良く生きようとする心情が養われていくのではないか。

2　読み物資料を使った授業設計

道徳の授業で読み物資料を使用する場合には，国語科の授業の文章読解のようになってはならない。そのために，教師が資料をしっかり熟読してから範読して資料に登場する人物の振舞いや考えをイメージさせなければ生徒の心を揺さぶることはできない。そこで実際に，資料「銀色のシャープペンシル」を教員が示範として範読し，授業の展開の仕方を学生にイメージさせた。本授業の実習では，チーム単位で道徳の時間の模擬授業に使用する資料を選定し題材を決めた。そして，生徒が主体的に資料に関わり，その内容から生徒自身が自分の問題としてとらえて発言できるように“ねらい”と関連した教師の発問内容を検討して授業展開を立案することを課題とした。資料は，生徒が道徳的価値の自覚を深めていく手掛かりとして大きな役割を担っていることから，教師が資料をよく熟読して資料の内容を分析する必要があり，生徒の立場に立って検討することによって望ましい発問構成の内容も浮かんでくる。このような方法により，〔図２〕で教員が作成した資料分析表を参考にして，各チームが模擬授業に使う資料の分析表を作成した。

（1）資料分析と発問づくり

実習Ⅰの資料分析については，資料が道徳的価値の自覚を深めていく手掛かりとして大きな役割をもっていることから，資料に描かれた筋を追ってその内容を知り，ねらいとする価値に迫る中心場面を定めてそこから発問内容を検討する。分析は分析表の枠内に記入する方法で資料に登場する人物の心情変化を推測して，人間としての生き方に関わる振舞いや考え方が生徒の心を揺り動かすであろう場面を押さえて，生徒に何を考えさせるかを視点に資料の筋を追い，「登場人物の言動」「登場人物の心境」をそれぞれの枠内に記入する。そして，指導者は生徒に何を気付かせ，考えさせるかを視点に表に記入して資料の筋を吟味する。

また，分析表の作成過程では，ねらいや指導内容及びねらいとする中心場面に着目して生徒がどのように感じたり考えたりするのかを具体的に推測して，ねらいに迫る教師の発問内容を検討させた。なお，発問内容では，実際に生徒と関わって実態を把握することが困難であるため，学生自身が経験したことや知識として持っていることを出し合い予想することにした。

なお，実習に使う道徳副読本は，学生全員に配布して授業資料の検討や予習及び模擬授業の生徒役として使用する副読本として活用した。

（2）模擬授業の構想づくり

実習Ⅱでは，各チームが資料選定して作成した分析表から模擬授業の指導過程で実際に話し合う中心場面の発問内容や予想される生徒の反応につての話合いに時間をかけた。その検討で役立てるための参考に実習ガイドを配布した。

実習ガイドの内容は次の６項目である。

１）主題と資料の主題構想の記述の仕方
２）主題構想の一般的手順の要領
３）資料の条件⇒同質的要素と異質的要素

図１　グループで授業構想を練る

図２　道徳資料分析表　　資料名「銀色のシャープペンシル」

出典資料「中学校　読み物資料とその利用３　平成５年（文部省）」

道徳的価値　内容項目　３―（３）

主題名　　「人間の気高さ」

※キーシーン　「ぼくの心臓は、ドキドキ音を立てて鳴りだした」

【分析表】

出来事の概要（話の流れ）	登場人物の言動 ○印：ぼく	登場人物の心境（見方、考え方、感じ方等）	気付かせたい・考えさせたい生き方、在り方
場面①			
教室の後ろにたまったゴミを片づけ	○落ちているシャープをポケットに入れた	○自分のシャープを無くしたところで「ちょうどいいやと思って」・・・	・誰でもやりがちな行為だ軽い気持ちで拾った
実験中に卓也と健二の気になることば	＜卓也＞ そのシャープ、ぼくのじゃ ＜健二＞ お前、卓也のシャープ取ったのか？	○健二は、ボクが卓也のシャープを取ったと疑っている	・批判する意見
ぼくが、健二に示した態度	○「これは前に自分で買ったんだぞ」と健二をにらむ	○「とった」ということばに血の気が引いた。ぼくは慌てた・・・	自分の行為を正統化しようとした
場面②			
実験中の健二の振る舞い	健二は、班の女子とふざけて笑わせている	○健二に、無性に腹が立ってきた だいたい健二が悪いんだ ○拾っただけのぼくがドロボーのように言われることはない［1］	健二や卓也に指摘されて、二人を非難している ＜人間の弱さ＞
シャープを卓也のロッカーへ入れる	○シャープを卓也のロッカーに突っ込んだ［2］	○「これでいい。ちゃんと返したんだから文句はないだろう」	自分の行為を疑われないようにしようとした
場面③			
卓也からの電話で卓也が謝る声を聞く	○「ぼくの心臓はドキドキ音を立てて鳴りだした。［3］ 自分の顔が真っ赤になっている	卓也は、ぼくを疑っていたことを謝っている ○うそをついた自分自身の愚かさに気付いた 「ぼくは、卓也を裏切っている」という自分の行為を恥じている	卓也のことばを聞き、自分のこころに迷いが生じた ＜素直な心＞
※後半は略			

【発問例】

［1］主人公が、卓也や健二を非難しているところをどう思うか？

［2］ロッカーの中にシャープを突っ込んでおいた主人公をどう思うか？　また、自分ならどうするだろうか。

［3］主人公の心臓がドキドキ音を立てて鳴りだしたのは、何故だと思うか？

4）指導過程の構想⇒予想される生徒の反応
5）教師の働きかけ⇒教師の基本発問
6）話し合いの組織化

3　模擬授業の実際

学生にとっては，道徳の授業を生徒の前で実際に行うのは初めての経験であることから指導過程の構想づくりをする段階では授業イメージがつくれるようチームで検討する話し合いを中心に進めることにした。担当教員は巡回してチームから出された質問を受けて適宜助言した。その主な内容は，各チームが作成した分析表から抽出した指導過程における中心発問が，生徒の道徳的価値を内面的に自覚し深めていく手掛かりになっているか，また，生徒が望ましい人間としての生き方を話し合う場となるように教師自らが生徒たちと共に考え見つめる姿勢をもって授業を進めるかを指摘した。また，道徳的価値についての見方や感じ方，考え方を深めていく指導過程となるために，生徒の考えを発表する場の設定を意識してねらいに沿った発問構成になっているか助言した。次に模擬授業の進め方をガイダンスした。

（1）模擬授業の進め方と教師の説話

模擬授業は開始時にチームが作成した指導過程案を教員へ提出してから授業を開始して導入部から展開部へと進み２０分程度経過したところで中止し，終末部で教師の説話（2分程度）して終了する。

道徳の時間の教師の説話は，授業の主題について教師と生徒が共に人間としてよりよい生き方を追求する時間であることから教師の価値認識を率直に，しかもできるだけ具体的に分かり易く教師自身の思いを生徒に伝えることを重点に置き，３つの視点に留意して説話文を作成することにした。

＜説話文の視点＞

ア　教師の実生活，実体験の中から主題に関連する話題をあげる。

イ　生徒の日常の学校生活の場面から主題に関連する話題をあげる。

ウ　その日の授業で話し合った感想から話題をとりあげる。

教師の説話文の例をチーム１班Ａさんの道徳指導案から抜粋して示す。

主題名「家族とのかかわり」

今は，戦国時代じゃないから”昨日元気だった友達が今日殺された“なんてことはまずないよね！だから普段これが最後の日かもと思って生活する人はいないと思います。でも，現在も昔も変わらないことがあります。それは必ず「最後の時」「永遠の別れ」が来るということです。人間はある日を境に二度と会えなくなる時が必ずきます。先生は昨年，おばあちゃんを事故で亡くしました。最後に会ったのは事故の五日前でせっかくおばあちゃんの家に行ったのに友達との約束があったから１時間位しか居ることができず，帰る時も「また来るね」と言って別れました。おばあちゃんが亡くなった後，先生は沢山の後悔をしました。

人間は実際に経験してみないとその悲しみや失ったものの大きさに気付けません。でも，人生全て一期一会だなと思って全力で生活して，人との関わりを大切にすると主人公や先生みたいに後悔することは少なくなるのではないかと思います。今「当たり前にあるものの有り難さ」「支えてくれている家族の有り難さ」に気付いて一期一会という言葉を胸に，いつかじゃなくて今，何ができるか，どう家族と関わっていったらいいのか考えてみてください。

授業では，授業者以外の学生は生徒の立場になり授業者の発問について積極的に協力して発言した。

なお，各チームが模擬授業に使用した読み物資料は，道徳副読本の中から選び指導過程案を作成した。各チームが選定した主題名と内容項目を表１に示す。

表１　模擬授業の主題名と内容項目

順	授業者チーム	内容項目	主題名
1	４班	2-(4)	異性を理解する
2	６班	2-(2)	思いやる心
3	１班	4-(6)	家族とのかかわり
4	13 班	2-(2)	思いやる心
5	８班	2-(1)	心のこもった言動
6	12 班	2-(3)	友と高めあう
7	９班	3-(1)	かけがえのない命
8	11 班	2-(2)	思いやる心
9	３班	1-(2)	夢を求める
10	５班	2-(2)	心のこもった言動
11	２班	2-(2)	思いやる心
12	14 班	3-(1)	かけがえのない命
13	10 班	2-(3)	思いやる心
14	７班	4-(4)	輝く集団をつくる

(2) 授業評価アンケート実施

模擬授業では授業が終了した後に，授業について協議する時間が確保できないため，〔表２〕による評価アンケート用紙を使い８項目について観点別評価（４段階）をして授業者へのコメントを記入することにした。

授業評価アンケート用紙は記入後に回収してから教員が記述内容を点検してチームへ返却した。チームではコメント内容や意見を参考にチームの反省を含めて指導過程案を修正してから，各自が道徳指導案を完成させて，指定された期日に提出した。

模擬授業では学生が生徒役の立場になり，指導者の発問に対しての発言や他者の意見を聞きながら価値についての考えを発言するという方法で授業を進めたが，延べ１４回の模擬授業に参加して各授業の評価アンケートから授業者に対する指導の仕方や進め方等について様々な観点から感想が述べられた。その内容では授業の進め方で良い点や修正点，改良した方がよい点等について率直な意見が述べられていた。これらは，学生が将来教師の立場になって指導案作成や実際の授業を行う時に役立つもので，授業力を養う上で有効な助言が得られたものと思われる。そのコメントの一部を抜粋する。

〇良い点

・資料の登場人物の発言の読み方が上手く場面がしっかりと浮かんできた
・発問の内容が価値に合っていたし，内容が分かりやすくて良かった。
・生徒に発問をしてその意見を聞く姿勢がすご

表２　模擬授業評価アンケート

【道徳の時間・授業評価アンケート】　実施日：平成 24 年　月　日

※授業者氏名（　）班『　』　※評価者氏名（　）班『　』

テーマ：「価値の内面的自覚を深める発問の工夫」

※評価 ⇒ 4非常に 3ある程度 2あまり 1まったく

	評価の観点項目 ※印：生徒の立場から判断する	評価	授業の感想、コメント
1	導入では価値の へ方向づけができていたか	3	1発問を受ける立場から
2	資料の範読は、場面の様子が浮かんだか ※	4	前半部分だけだったが、範読で場面が想像しやすく、発問に対しても考えやすかった。
3	教師の発問は、分かりやすかったか ※	4	
4	教師は生徒と共に考えようとしていたか ※	3	
5	発言からああそうか、本当にいいなあと思ったか ※	3	2発問をする立場から
6	生徒の発言のさせ方は適切だったか	3	文脈以外で、生徒に考えさせる発問があり、生徒自身の立場に置きかえさせることで価値の内面化が図れていたと思う。
7	教師の説話は、ねらいに合っていたか	4	
8	ねらいの価値の内面化が図れていたか	4	

く教師らしかった。
・生徒に“なるほど”と言って反応して，先生が生徒の意見を聞いているなと感じた
・生徒の発言に対して先生の反応がしっかりあり対話になっていたので良かった。
・言葉づかいや，うなずいて生徒と共に考えようとしているところが良かった。
・価値を追求する内容では，グループで話し合わせてより深い考えを追求しようとしてよかった。発問を板書して分かり易い。
・生徒の立場として授業の世界に入り込むことができた。声もよくて先生の言葉が良く耳に入ってきた。
・資料の分量を減らして進めた機転の利かせ方は価値を追求しやすく良かった。

○改良点
・先生が範読や話す時は生徒を見るようになればもっと良い授業になると思う。
・資料の読み方が台本を読んでいるようだったのでもう少し自分の言葉で話すとよい。
・発問の生徒の意見が不十分な時の教師の補足がほしいと思った。
・生徒の発言を板書して具体的に分かりやすくしたほうがいいと思った。
・導入段階で価値の方向づけをもう少し入れた方がよかった。
・発問の一つ一つにつながりが見えない。発問を放置しないでほしかった。
・生徒の発言に共感していないように感じた。もう少し“なるほど”の合いの手が欲しかった。
・生徒の発言に対して先生の価値についての具体的な反応がほしかった。

模擬授業終了時に授業評価アンケートを実施することは事前の実習ガイダンスで説明済みであったが模擬授業の課題のテーマ“価値の内面的自覚を深める発問の工夫”について模擬授業の指導評価の観点を８項目とした。そこで，実際に授業を行いそれぞれの観点について４段階の評価を生徒が行ったが，全員から評価アンケート用紙を回収して評価の平均点を算出して〔表３〕のグラフに表し授業を総括してフィードバックした。実施例としてチーム７班（３名）の評価アンケートの分析と感想を紹介する。

＜７班Ａ学生＞

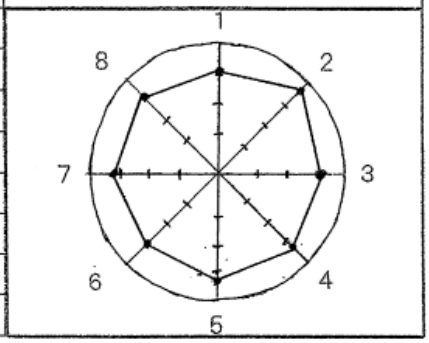
全体として，とても良い評価がもらえました。一番良い評価であるのは，２の観点項目で，これはグループの授業計画によるものではなく，代表として授業をしてくれたＢ君の特性だと思

表３　模擬授業評価アンケートの分析

【道徳模擬授業評価アンケートの分析】　　チーム【７班】

	評価の観点項目 ※印：生徒の立場から判断する	評価 4.0
1	導入では、価値のへ方向づけができていたか	3.1
2	先生の範読は、場面の様子が浮かんだか　※	3.7
3	教師の発問は、分かりやすかったか　※	3.2
4	教師は、生徒と共に考えようとしていたか　※	3.3
5	発言からああそうか、本当にいいなあと思ったか　※	3.3
6	先生の発言のさせ方は、適切だったか	3.0
7	教師の説話は、ねらいに合っていたか	3.3
8	ねらいの価値の内面化が図れていたか	3.2

総合評価
4非常に　3ある程度　2あまり　1全く



4.0－100%　3.8－95%　3.6－90%　3.4－85%　3.2－80%　3.0－75%

う。これは全体の評価にも影響していると考えられ，同じグループのメンバーである私にとってはB君から学ぶ点が多いと思う。授業計画をした発問の内容については，グループで考えたもので良い評価がもらえて良かったと思います。

＜７班B学生・授業者＞

範読の評価が高かったのは良かったが，これは練習をすれば誰でもできることなので最終的なアドベンテージにはならないと思う。発言のさせ方の評価などが低かったことからも，生徒の発言に対するリアクションや自分自身の引き出しを増やしていかなければいけないだろうと思った。また，導入や説話についても自分ではしっかり考えたつもりでもあまり十分な評価がもらえていないと思った。

もっと自分の考えを表現する力を付けて生徒に理解してもらえるよう話し方を工夫していかなければいけないと思った。

＜７班C学生＞

評価にもあった通り，B君の範読はとてもいいものだと思った。発問については時間をかけて頭を悩ませたので肯定的なコメントが多くて少し嬉しくなった。また，導入についての評価が下から２番に低いことは反省点だと思う。B君の当時の立ち位置を想い出してもらい，より深く物語を考えて欲しかったが，生徒に少し理解しづらかったかもしれない。

（３）実習の総括（反省と感想）

実習が終了した授業時のレポートからは，道徳の模擬授業の体験を通して学んだことや反省事項が述べられた。その一部を紹介する

＜A学生＞

道徳の授業は小中を通じて受けた記憶がほとんど残っていなかったのでどのような授業なのか全くイメージがわかなかった。しかし，皆の模擬授業や実際に授業計画をつくることによって，どのようにすれば道徳的な価値の内面化が図られるかが分かってきた。グループの代表者の模擬授業では一緒に授業計画をつくったにもかかわらず,私には出せない良さが多くあった。これにより道徳の授業は，その授業者の持ち味とも言える話し方や受け答えの仕方が重要になると感じた。このことは，性格や普段の生活など人生経験によるもが多く関係するもので，私はこれから大いに学ばなければならないと考えている。

＜B学生＞

読み物資料を使った授業を行うまでにやらなければならないことを学んだ。発問づくりも大変苦労したが，それ以上に生徒の反応がどのようになるかを様々な視点から見つけることが難しかった。実際に中学生を相手にしたらいろいろユニークな反応がでると思うとしっかり資料の分析をしなければと思った。また，自分の模擬授業について，授業評価アンケートをもらい生徒役の皆のコメントや評価から，今すぐ改善でき，日常生活の中で直せるかもしれない改善点があったので，まずそれから直したい。この授業から改めて教職に就きたいと強く思った。

＜C学生＞

私は，道徳の授業に関心があり，以前から授業の構想を立てていたのですが，この実習の経験から本当の道徳の在るべき姿が見えてきて構想していたものがほとんど良いものへと変わったと実感している。模擬授業を行う中で，生徒の発言のさせ方や板書の仕方，導入部分の進め方について最も良い方法はどうすればよいか等で深く考えさせられた。まだ，その答えは見つからないが今後，関係の図書を読み諸先生，先輩方に相談したりして力を付けたいと考えています。

＜D学生＞

今回の道徳模擬授業をするにあたって，授業の準備が大変なものだと体験できた。今回は資料分析や発問づくりをグループで行ったが，実際には一人でやらなければならないので，授業を受ける生徒がどんな反応をするのかを教師になった時に予測できるよう一人一人の生徒の特徴を把握しておかなければならないと思った。実際に模擬授業を行った時は，生徒の発言が多少違っていても，うまく修正していく教師の能力が必要だと感じた。また，道徳という授業は一つの意見を言うことが生徒にとって最も高いハードルと思うので，感じたことを何でも発言できる学級の雰囲気を実際の授業でつくっていかなければならないと思った。

＜E学生＞

道徳の授業で大切なことは，実習などを通して生徒とのコミュニケーションだと学習しました。道徳的価値の内面化を目指すためには，教師がただ一方的に説話をするのではなく生徒の意見をしっかりと受けとめ，それに対して教師も一緒になって考えていくということが重要だと気付きました。その点で私はまだまだ生徒とのコミュニケーション能力が足りないと実感できこれからの課題にしていきたいと思います。

道徳は中学生にとって，重要な科目だと私は思います。身体も心も不安定の時だからこそ道徳の大切さをこの授業で改めて感じることができました。

4　むすび

本授業の模擬授業の実習に使った読み物資料は現在の中学校道徳教育で使用している副読本を使用した。4年次に履修する教育実習では中学校で実習する学生が多く，実習では道徳の時間に直接生徒と向き合い授業を行うことから，道徳性を育てるうえでどのようなことが大切であるかを模擬授業を通して実感して，何が得られて，何が自分自身の努力目標になるかを明らにすることである。そのため模擬授業の準備段階では，その授業の主題とするねらいを明らかにして，資料の選定，資料分析，発問づくり，指導過程の検討のステップを経て実際に授業を行い，教師，生徒の立場になって授業を評価してその成果を共有した。授業終了後の感想文から多くの学習成果が述べられていたが，学生たちが過去に受けた道徳教育の教育歴から新たな価値を見出すことができていた。教師の立場となるためには，自分自身が深い道徳心を持った人間として成長することが最重要課題であると述べた内容も多く見られた。

また，実習の感想を総括すると道徳教育を担う教師は，日頃の生徒との関わりを大事にして，その生徒の考え方や行いなどの特徴を理解し心のつながりをつくることが全ての教育活動の土台になるということが確認された。

【参考資料】

1）中学校学習指導要領解説　道徳編
平成２０年３月文部科学省
2）中学校　読み物資料とその利用３
平成５年３月　文部省
3）中学道徳②きみがいちばんひかるとき
道徳副読本　光村図書